

③	②	①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">マンボウの</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">たまごの</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ほとんどは、</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ほかの</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">魚に</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">食べられて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">しまうから</div>	イ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">あたたかい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">海に</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">すむ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">魚</div>

「かいせつ」

①と③は文しょうの つぎの 場ばしよ
に 書かれて います。

①
マンボウは あたたかい 海に すむ 魚です。
フグの なかまですが、ほかの 魚と ちが
ふしぎな 形を しています。マンボウは クラ
ゲを 食べながら、ゆっくり およぎます。マン
ボウは たくさんの たまごを うみます。でも、
③
たまごの ほとんどは、ほかの 魚に 食べられ
て しまいます。だから、大きく そだつ マン
ボウは 少ししか いません。

②
たぐさん たまごを うんでも ほとんど
が 食べられて しまうので、「でも」が 入
ります。

③	②	①
ウ	ア	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おこなう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">きせつの</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">く切り目と</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">して</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">いろいろな</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">行じを</div> </div>

「かいせつ」

(1)と(3)は文しょうのつぎの場ばしよに書かれてあります。

五月五日は二つの行じがある日です。一つは、たんごのせつくです。せつくとは

きせつのく切り目としていろいろな行じをおこなう日です。一月七日の七草がゆを食べる日、三月三日のひなまつり、七月七日のたなばたなどがそうです。

③二つめは、子どもの日です。子どもの日は、「子どもをたいせつにしよう」というもくてきで作られました。この日は男の子のいる家では、こいのぼりをあげておいわいします。

(2)五月五日は二つの行じがある日なので、「二つめは」が入ります。

③	②	①
食べられて しまうから マンボウの たまごの ほとんどは、 ほかの 魚に	イ	クラゲ

「かいせつ」

①と③は文しょうの つぎの 場ばしよ
に 書かれて います。

マンボウは あたたかい 海に すむ 魚です。
 フグの なかまですが、ほかの 魚と ちがい
 ふしぎな 形を しています。 マンボウは ク
 ラゲを 食べながら、ゆっくり およぎます。マ
 ンボウは たくさんの たまごを うみます。
 ③でも、たまごの ほとんどは、ほかの 魚に
 食べられて しまいます。だから、大きく そだ
 つ マンボウは 少しか いません。

② たくさん たまごを うんでも ほとんど
 が 食べられて しまうので、「でも」が入
 ります。

③	②	①
イ	ウ	きせつの く切り目と して いろいろな 行じを おこなう 日

「かいせつ」

(1)と(3)は文しょうの つぎの 場ばしよ
に 書かれて います。

五月五日は 二つの 行じが ある 日です。
一つは、たんごの せつくです。 (1) せつくとは

きせつの く切り目と して いろいろな 行じ
を おこなう 日です。 一月七日の 七草がゆを
食べる 日、三月三日の ひなまつり、七月七日
の たなばたなどが そうです。

(3) 二つめは、子どもの 日です。子どもの 日は、
「子どもを たいせつに しよう」というも
くてきで 作られました。この日は 男の 子の
いる 家では、こいのぼりを あげて おいわい
します。

(2) 五月五日は 二つの 行じが ある 日な
ので、「二つめは」が 入ります。



③	②	①
イ	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">うえこむ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">つぎ木と</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いう</div> </div>	ソメイヨシノ
	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">えだを</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ほかの</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さくらに</div> </div>	
	方ほう	

「かいせつ」

(1)と(2)は 文しょうの つぎの 場しよに 書かれて います。

① さくららは 日本を だいひようする 花です。わたしたちが ふだん よく 見るのは、ソメイヨシノと いう しゆるいの さくらです。ソメイヨシノは ニしゆるいの さくらを まぜて 作られました。ソメイヨシノは たねを つくれません。そのため、^②えだを ほかの さくらに うえこむ つぎ木と いう 方ほうで ふやしませす。ずっと むかしから ソメイヨシノは つぎ木で 作られて います。**ですから**、わたしたちが 見て いる さくららは 一本の 木から ふえた 同じ 木なのです。

(3) ソメイヨシノは つぎ木で ふやして きたことから わたしたちが 見て いる さくらら もとが 同じ 木と いう ことなるので、「ですから」が 入ります。



③	②	①
ア	えだを ほかの さくらに うえこむ つぎ木と いう 方ほう	ソメイヨシノ

「かいせつ」

①と②は 文しょうの つぎの 場ばしよに 書かれて います。

① さくららは 日本を だいひょうする 花です。わたしたちが ふだん よく 見るのは、ソメイヨシノと いう しゅるいの さくらです。ソメイヨシノは ニしゅるいの さくらを まぜて 作られました。ソメイヨシノは たねを つくれません。そのため、^②えだを ほかの さくらに うえこむ つぎ木と いう 方ほうで ふやしませす。ずっと むかしから ソメイヨシノは つぎ木で 作られて います。ですから、わたしたちが 見て いる さくらら は 一本の 木から ふえた 同じ 木なのです。

③ ソメイヨシノは つぎ木で ふやして きたことから わたしたちが 見て いる さくらら は もとが 同じ 木と いう ことにならるので、「ですから」が 入ります。